

[成果情報名] 2007年の山形県におけるコイヘルペスウイルス病の発生状況

[要 約] 山形県において発生から4年目となったコイヘルペスウイルス病は、7～10月までの間に12件確認され、発生件数は前年の4倍となった。発生期間は前年より1ヶ月長く、発生場所は業者、個人池、公園であった。

[部 署] 山形県内水面水産試験場・生産開発部

[連絡先] TEL 0238-38-3214

[成果区分] 政

[キーワード] コイ、コイヘルペスウイルス病、魚類防疫

[背景・ねらい]

コイヘルペスウイルス病の経年的な発生時期や発生場所を調査して、今後の防疫対策や防疫指導に役立てる。

[成果の内容・特徴]

1. 2004年6月4日に本県において初めてコイヘルペスウイルス病（以下 KHVD）が確認されてから、本年は4年目となった。
2. KHVD の発生は7月3日から10月1日までの3ヶ月間みられ、計12件が確認された。マゴイ及びニシキゴイであった。発生件数では前年（3件）の4倍となった。これまでの発生件数を年別に見ると、2004年—69件、2005年—16件、2006年—3件となっている。
3. 発生は最上地区7件、村山地区2件、庄内地区3件であった。最上地区では7件中6件が用水路の水系に沿って発生した。業者は2件、公園の池が2件、個人池が8件であった。業者同士では販売・購入の経過があった。公園の池はいずれも、これまで発生が見られなかった場所で起こったもので、新たに導入したコイもなかったことから、持ち込みによるものと考えられる。
4. 天然の湖沼や河川では発生が見られず、感染耐過魚の増加やコイの持ち込み、持ち出しがないことが効果を上げているものと考えられる。

[成果の活用面・留意点]

1. 発生件数はこの2年間減少を続けていたが、一転して増加に転じた。依然として感染源となりうる感染耐過魚は広く存在すると想定されるので、具合が悪くなったり斃死したコイは速やかに埋却あるいは焼却処分をするなど、決して川や池に捨てることのないよう、基本的な防疫対策を今後とも継続していく必要がある。

[具体的なデータ]

表1 2007年の山形県における月別・発生場所別のKHVD発生件数

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	計	2006年	2005年
養殖・加工・釣り堀等業者		2					2	1	4
天然湖沼河川や用水路									1
公園や学校等の池や堀		1			1		2	1	1
個人池		1	4	3			8	1	10
計		4	4	3	1		12	3	16
2006年	1	1	1				3		
2005年	3	6	4	1	2		16		

注1 ; 2005年の16件には再発の1件を含む。

[その他]

研究課題名：増養殖技術指導

予算区分：県単

研究期間：平成19年度（平成15～19年度）

研究担当者：松井俊二、高橋伸明、大川恵子

発表論文等：